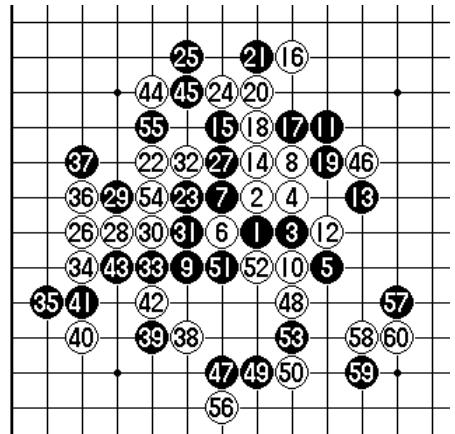
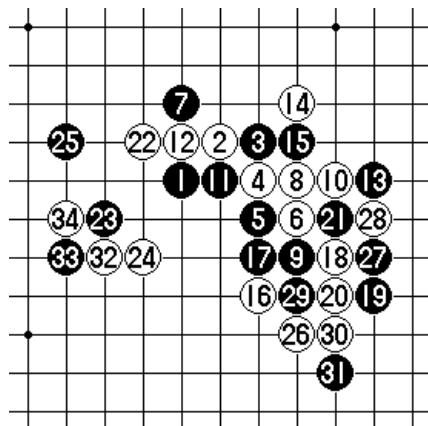




本局で興味深いのが、1  
～5まですべてスワップし  
なかつたということである。  
つまり、1～5まで順番通  
りに打つたということであ  
る。タラグチはお互の意  
思が通じていればこのよう



● 1回戦  
白 黒 日本 1 中山智晴  
中国 2 Huang Liqin  
こういう時はまず三を引く所から考えたい。剣先を作らずに全部を防ぐのはなかなか難しいことが多い。覚えておくと良いだろう。

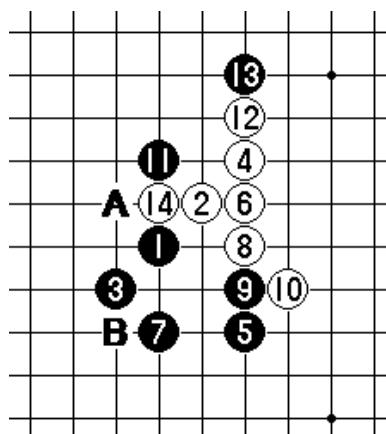


● 1回戦　黒　日本　1　神谷俊介　白　中国　2　Cao Dong

い。からないが）進むことも多い。

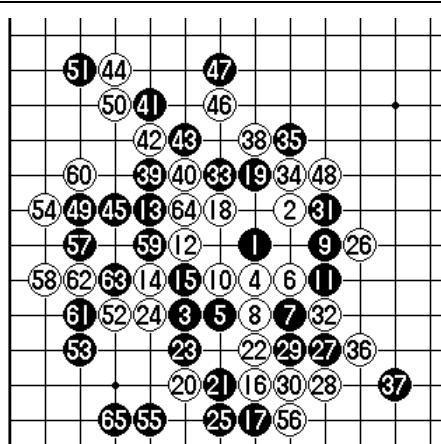
結局昔から打たれている形に戻った。中国側も研究しているのだろう。神谷、中山には満局で十分と言う作戦が見て取れる。これを打ち破る作戦を披露したいところだが、1回戦とあつてお互に慎重になつたのだろう。比較的短手数で満局となつた。

一方、日本2の初戦はマカオであつた。丸田君の初戦だが、白4もいかにもタラグチらしい作戦。白6まで一体どちらが読み勝つてゐるのだろう？実は黒が勝つており、黒7からA Bの順に引いていけば以下簡単だつた。実戦は黒7とさら



本局はもつと短い手数で満局となつた。サオにとつても神谷名人と満局なら十分と思つただろう。白34と相当早く満局となつてゐる

最後に中国同士の一戦も紹介しよう。黒は梅凡、白はWTを優勝した神谷夫人である。このスタートで黒は良く勝ち切つた。黒39が好点だった。



1回戦 中国 1 黑  
3 中国 Wang Qingqing Mei Fan